

倦まざりし斯道諸學者の精進に、及び特に本目錄第一冊出版の此際に於て婉雅師ミその出藍の弟子文鏡師の努

力に謹んで敬意を表する。而して本目錄の出版が魔事なく速に完結せん事を祝する。

大谷大學圖書館藏

「西藏大藏經甘殊爾勘同目錄」の出版を記念して

山口 益

西藏藏經甘殊爾の目錄ミしては櫻部文鏡氏が宗教研究第七卷一號に上げらるゝ如く、主なるものミして(1)既に約百年前、即ち一八三六年カルカッタに於て Asiatic researches 中に Csoma de Kőrös によつて Analyse du cher pbyin, du phal chen, du Dkon tsegs, du Do-de, du Nyang das et du Gyut がつつものせられ、後その分類目錄は Léon Feer が佛譯増補して一八八一年 Annales du Musée Guimet の第二卷中に出版せられ、(2)一八四五年に Saint-pétersbourg の西藏語蒙古語學者 I. J. Schmidt の著 Der Index des Kanjur があり、(3) Verzeichniss des Tibetischen Handschriften 及び Handschriften-

verzeichnis der Königlichen Bibliothek の第二十四卷ミして Meghaduta 及び Udānavarga 西藏譯の出版者としても知らるゝ Hermann Beckh の著であり、(4)我國に於ては河口慧海氏譯ナルタン版西藏大藏經甘殊爾目錄、昭和三年刊を有する。

cher pbyin, du phal chen, du Dkon tsegs, du Do-de, du Nyang das et du Gyut がつつものせられ、後その分類目錄は Léon Feer が佛譯増補して一八八一年 Annales du Musée Guimet の第二卷中に出版せられ、(2)一八四五年に Saint-pétersbourg の西藏語蒙古語學者 I. J. Schmidt の著 Der Index des Kanjur があり、(3) Verzeichniss des Tibetischen Handschriften 及び Handschriften-

佛佛京巴里國立圖書館寫本室所藏北京版丹殊爾目錄出版者 Palmyr Corderier は E. Blochet の記する處によれば Catalogue du fonds tibétain の第一卷たるべき甘殊爾目錄の出版を後期の爲に残しつゝ、一九一四年九月五日歐洲大戰の犠牲者となつて居る。故に六年間近く Palmyr Corderier が植民地派遣の一軍醫ミしてその本務

に主なる時間を吸収せられつゝ、堪へ難き酷暑の下に築き上げた彼の西藏々經に盡せし功績は、まだ全部世に知られてないのである。併し彼の遺業は現在巴里國立圖書館囑託にして Avadana 文學の研究者たる Melle Marce le Lalou の繼承する所であり、Jean Przyluski 教授監修の Buddhica 第二集中に、近く出版せらるべき Catalogue du fonds tibetain de la Bibliothèque Nationale, t.1 は正にその繼承せる遺業の一端であるやうに聞いて居る。

東西に於ける學徒のそれらの業績は、何れも夫々特別な價值の下に記憶せらるべきものであらう。併し何れにしても、西藏々經目錄の眞の形態は櫻部氏も此を要請する如く「單なる經題の列擧でなく、西藏々經の一々について梵、巴、漢の各種經典との對同有無、更にその内容の長短具缺、漢本に異譯あるものはそれらの何れに親しきかの分別等をなるべく詳細に嚴密に對比研究したる成果としての勘同目錄」たるべきは云ふを待たぬ。何故なれば西藏經典の原典的價値は、大體漢譯並びに現存の梵本と比較對校してのみ認識せられる。これのなされざ

る限り云何なる目錄を有するも、そこに示されたる西藏經典はその價値未知の與へられたる材料にしか過ぎないものであり、従つて勘同目錄を作成するに云ふことはその包有する經典全體の價値を、大體定めることにな

る。梵語、印度學の研究者が多く泰西に遊學せし過去の歴史より見て、以前に於て泰西の學界は梵本この勘同を若し行ふならば、行ひ易き位地におかれてあつた。併し泰西に於ける既刊の目錄にも Leon Feer が少しく關説するに止まり、その嚴密になされてあるものはない様である。漢譯本との嚴正なる對校は獨り我國學徒の占有する領域であつて、此を行ふことに於てのみ日本佛教學徒が斯界に於ける意義を主張し得る。Julien, Chavannes 以來佛國東洋學は漢文佛典の研究に於て、西歐の學界に注目せられて居る。併し Melle M. Lalou が一九二七年號アジア協會誌に於ける「寶積經に關する研究」一九二九年同誌上の般若經に關する研究は、忠實なる仕方ではあるが、勿論漢本對同なきの行はれたるものでは更々な

い。況んやよし、M. Mr. Pelliot, Przyluski 等の援助を以てしても Melle Marcelle Lalou の近刊なる目錄に漢譯對同の業が加へられてあらうことは、決して豫想してはならない。茲に初めてその第一冊の上梓せられた甘殊爾勸同目錄は、その調査證定の任に當られし教授寺本婉雅師、並びに櫻部文鏡氏が與へられたる凡例に由れば、漢譯は幾種の異譯あるも固り、梵本も現存刊、未刊のものにして編纂者の參見し得たる限り、又は大正藏經の採用せしものを再引用して對同したのであるから、櫻部氏が宗教研究の論文に要請せし意趣が、少くも實現せられたるものと認めねばならない。

大谷大學は、その前身なる眞宗大谷大學時代に於て、教授寺本婉雅師の將來による、北京版甘殊爾丹殊爾完本の恩恵を受け、大正四年以來西藏語學教室は開かれ、茲に上梓の目錄の凡例によれば、大正十五年四月以後寺本教授ミ櫻部囑托ミに、その調査證定を命じたミ示されてあるが、寺本教授がそれに關する計企は夙に夙に進涉せられたりしコミデリゲ版の葉數の指示が専ら寺本教授

の既に調査せられしを、櫻部氏に授與せられたりしによりても知るべく、又櫻部氏は大正十一年眞宗大谷大學研究科入學の當初より、寺本教授指導の下に西藏大藏經の總括的研究に着手、爾來その「目錄學」以外何等餘事に關心するこみなく、専ら斯業の研鑽に捧げ、所謂「勸同目錄」の着手年時「たる大正十五年四月には既に大寶積經の部分まで何等の形に於て、その形態を成せしものであるから、私は此目錄が眞に文字通り何等の、誇張もなき十年間の業績であるこみを、敢へて認めるのである。

既に知らるゝ如く、此勸同目錄の一部即ち般若部ミ寶積部は「佛教研究」第七卷第一號——第八卷第四號に於て櫻部文鏡氏の名の下に出されたこみであつた。當時佛京巴里に滞在して國立圖書館の寫本室、ギユイメ博物館或はシルヴン・レヴィ教授宅に於て時々 Melle Marcelle Lalou ミ斯學について相語るこみありし私は、自分の所有したりし「佛教研究」誌のそれらの號を Melle Lalou に示してその成績を問ふたこみであるが、その懇望によりて遂に櫻部氏に依頼し、それら諸號の一揃を Melle

Yalou に送届提供の勞を累したりしことであつた。

Melle Yalou が上に述べし、寶積經研究について櫻部氏の漢譯との對同録に一言せること、同じく般若經のそれに於て「梵漢對稱の上より品名を掲げたる北京版による貴重なる情報」を我が櫻部氏によりて與へられたりしなすものは固り右「佛教研究」の諸號に依るものなるは言ふを待たぬ。茲に上梓せられたる勸同目錄は北京版の順序として第一門祕密部のみであるが、先の般若寶積部と合して此目錄の體裁は大體知られ得ることであらうし、續いて刊行せらるゝ第二、第三冊の我々に提供せらるゝ日も近づきつゝあることであるから、程無くして此甘殊爾勸同目錄は、彼漢譯との對同なき Order の丹殊爾目錄でさへ學徒が西藏譯論疏部に關説する場合には、専らそれによりて「西藏譯は曰々」をなす役目をなし來れるにも彌増して、甘殊爾研究に就いて異常の功績を示すことゝなるであらう。

かゝる目錄の作製は、その仕方にて種々なる具略のあることであらうが、本勸同目錄は單に經題や一經の初

「西藏大藏經甘殊爾勸同目錄」の發刊

終のみを以て對同を決定した程度のものとは異り、その梵本と對校するにせよ、漢譯と對校するにせよ必ず一葉に一葉にその吟味は行き届いたのであつて、何れの一葉にても勸同者の眼の通されざりしは無く、その成績は梵本又は漢譯との對同せられたる詳細なる品名の列記によりても知らるゝことであらう。その大部分が未校訂未出版なる西藏經典の如き目錄としては、その點の精確にせらるゝことが何よりの要項である。かくして漢譯に二種三種ある場合に於て、その西藏譯に最も近きものより次第に記して西藏譯との等同の程度を示したる如き、勸同者が最も注意を致されたる點を認められる。

隨分に注意を重ねるに注意を以てせられたものではあるが、勸同者自らも尙若干の粗漏の有るやに云はるゝから第三者の立場より、専門的に批判せらるゝならば尙多くの批判の餘地のあるものであるかも知れぬ。私は櫻部氏と同じく夙に寺本教授の門下に於て、西藏語を學習したるものであるが、淺學不肖にしてこの勸同目錄の業に携はるの機を逸したる爲、此業に就いての正しき識見

を有せざれば、こゝには具體的なる價值内容に就いて論ずることを欲せず、但、彼 P. Cordier が作さざるべからずして俄然中絶し、遺業として後の學徒に委したる如き觀のある北京版甘殊爾の目錄が、巴里國立圖書館と相並びて、同じく北京版の完本を夙に所藏せる我大谷大學圖書館の事業として、故人 Cordier が豫想たもせざりしならん漢譯との精緻なる對同を経て、茲に完成の第一歩を踏み出でた此舉を記念すべく、且つは同學に在りて斯學に末座を穢せる因縁から、寺本婉雅教授が多年の功績に報いんが爲め、又櫻部氏が十年に亙る勞を敲ふべく茲に瑣か愚言を陳したる次第である。

終に臨んでゝはあるが、大谷大學圖書館長赤沼智善教授が此目錄出版の事業に卒先せられ、幾多の困難を排して着手せしめられた深厚の配意に對し、深謝の微意を表することを茲に許され得るならば、斯學の末座を穢す私としては誠に望外の幸である。(昭和五年八月二十日)